

日本記者クラブ会報

公益社団法人 日本記者クラブ 〒100-0011 東京都千代田区内幸町2-2-1 日本プレスセンタービル TEL.03-3503-2722 <https://www.jnpc.or.jp/>



AFP時事

見えない“敵”との闘い

新型コロナウイルス流行の中心地となっている中国・湖北省武漢市。紅十字会医院で急増する患者の対応に当たる医療関係者=2020年1月25日

予想外の出来事が続き、「不確実性の時代」が現状を示す言葉として定着している。そんな時代の「先」を読むため、日本記者クラブは、新しいスタイルの会見をスタートさせた。

それは、毎月第2木曜午後4時から、将来有望な若手政治家をゲストに迎える新シリーズ「次の10年若手政治家に問う」だ。開催日時を固定してのシリーズ会見は初めての試み。

発案者の一人である福田裕昭企画委員(テレビ東京報道局長)は、「安倍長期政権下で」若手の政治家の動きがなかなか見えてこない。現場の政治家たちにもリサーチして、閣僚未経験で今後10年で政界の主役になりそうな政治家を選び、じっくり話を聞いてみたい」と語る。

1回目に登場したのは、自民党の蘭浦健太郎・衆議院議員(47)。蘭浦議員は、読売新聞記者出身で2005年に初当選。現在は、自民党総裁外交特別補佐を務めている(3ページに関連記事)。

会見では、司会の橋本五郎企画委員から「若手自民党議員は、安倍一強に甘んじているのでは」と問われ「自分は総理に対しても好き勝手に言っているつもり。総理は自分の意見と違っても聞く度量はある」と反論する場面も。

2月13日の2回目には自民党の鈴木隼人・衆議院議員(42)を予定している。

(専務理事 土生修一)

初の月例会方式でシリーズ会見
「次の10年 若手政治家に問う」

かわの かつとし 河野 克俊 前統合幕僚長

■ 1・24(金)「安保改定60年 その功罪と今後」②/司会：榊原智委員/出席：79人

たっそ たくや 達増 拓也 岩手県知事

■ 1・31(金) 記者会見/司会：坪井ゆづる委員/出席：28人

ホルヘ・トレド・アルピニャーナ 駐日スペイン大使



中道左派と急進左派による同国民主化後初の連立政権が1月に発足。「新政権はカタルーニャ問題を裁判ではなく交渉で対応。ブレグジットはスペインにチャンス。EU加盟国であり、スペイン語圏人口は5.7億、インフラも充実。日本企業の欧州新拠点にぜひ」とPR。

■ 1・21(火) 記者会見/司会：鶴原徹也委員/通訳：中尾憲枝/出席：16人

とうごう かずひこ 東郷 和彦 元駐オランダ大使



「米中の中で国益をどう最大化するか。どちらかに寄るのなら簡単だが、両方と共存するならば友達が必要。それになり得るのは韓国」と、現実的な生き残り策として日韓の和解が必要と説いた。「北朝鮮との交渉の上でも韓国とけんかしている場合ではない」とも。

■ 1・27(月)「朝鮮半島の今を知る」④/司会：五味洋治委員/出席：58人

さきき たけし 佐々木 毅 東京大学名誉教授



「先進民主政各国の変容をどう理解するかが最近の関心」と切り出し、「経済成長の鈍化により利益政治が機能しなくなった」と分析。「利益の分配からイデオロギー、アイデンティティーの政治へ。ポピュリズムの台頭は利益政治の機能不全と関係している」

■ 1・31(金) 記者会見/司会：山田恵資委員/出席：77人

下記のゲストの会見レポートは3～7ページに掲載しています

かたおか まみ 片岡 真実 森美術館館長

■ 1・8(水) 記者会見/司会：小川記代子委員/出席：63人

そのこうら けんたろう 園浦 健太郎 衆議院議員(自由民主党)

■ 1・9(木)「次の10年 若手政治家に問う」①/司会：橋本五郎委員/出席：37人

「2020年経済見通し」①～④

くまの ひでお 熊野 英生 第一生命経済研究所経済調査部 首席エコノミスト

■ 1・15(水) 五輪後の日本経済/司会：播摩卓士委員/出席：83人

なかぞら まな 中空 麻奈 BNPパリバ証券市場調査本部長

■ 1・20(月) 金融リスク/司会：藤井一明委員/出席：67人

もり たけし 森 健 野村総合研究所上級研究員

■ 1・22(水) デジタル時代の経済/司会：竹田忠委員/出席：77人

Li Xuelian 李 雪蓮 丸紅経済研究所シニア・アナリスト

■ 1・29(水) 中国経済/司会：藤賀光雄委員/出席：73人

「オリンピック・パラリンピックと社会」⑤⑥

こばやし とある 小林 亨 東京2020組織委員会国際局NOC/NPC本部長

■ 1・16(木)/司会：森田景史委員/出席：38人

にしむら ひょう 西村 亮 東京2020組織委員会広報局 プレスオペレーション本部長

■ 1・30(木)/司会：森田景史委員/出席：37人

たなか こういちろう 田中 浩一郎 慶應義塾大学教授

■ 1・17(金)「米・イラン軍事的緊張の行方」/司会：出川展恒委員/出席：87人

「スウェーデンの性交同意法 強制性交とは何か」

ヴィヴェカ・ロング スウェーデン司法省上級顧問

ヘドヴィク・トロスト スウェーデン検察庁上級法務担当

■ 1・21(火)/司会：磯崎由美委員/通訳：渡辺奈緒子/出席：31人

▼写真画廊	▼マイBOOKマイPR	▼追悼	▼リレーエッセー	▼新年五礼会員懇親会	▼書いた話書がなかった話	▼記者ゼミ	▼被災・防災・減災	▼新・列島報告	▼リーニングプレス	▼試写会「風の電話」	▼会見レポート	▼クラブゲスト
20	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7
田勢康弘	阿部岳	鈴木康雄	向井紀文	大橋弘典	神戸金史	阿部欣司	神戸金史	阿部欣司	阿部欣司	阿部欣司	阿部欣司	阿部欣司

片岡 真実 森美術館館長

1月8日

現代アートは「世界の縮図」 日本の存在感は希薄



村上隆、奈良美智……。アートに詳しくなくても、作品の高額さを含めて彼らの活躍は知っている。だから日本のアートはいい線なの

かと思っていた。ところが、昨年66万人を集めた「塩田千春展」など数々の人気展を手がけた名キュレーターは「香港やシンガポールでは近現代美術館やビエンナーレ、アートフェアが盛んだ。日本の存在感は相対的に希薄になっている」と断じる。

1月1日から森美術館の館長に就任、国際美術館会議(CIAMA)の会長にも非ヨーロッパ圏から初めて選ばれた国際派。だから、世界における日本の現状も客観的に認識している。会見には美術担当記者も多く集まり、終了後も囲まれていた。マルセル・デュシャンが男性の小

便器をアートとして発表した衝撃作「泉」から100年以上たっても、日本では「アートは美しい、が突破されない」と言う。

現代アートとは政治、社会、経済、文化などの背景を踏まえて理解される「世界の縮図」。意味を考えさせるものであり、美しいだけではない、というのだ。

さらに、現代アートの市場規模は数兆円となっている。もはや芸術のみならず国際経済の分野だ。国は、遅ればせながら2014年度に初めて現代アートに対して文化庁予算を計上したという。今後、片岡氏は日本現代アート委員会座長として国際的な情報発信などに努めていく。

色紙には「八不中道」と書いた。インド高僧の言葉で、とらわれないモノの見方をいう。極論が跋扈する世界を見据えたのだから、「是とされてきたことが見直される時代。俯瞰し、立ち位置を探りたい」と説明した。

会見では答えづらい質問にもユーモアを交え、柔らかく受け答えする様子が印象的だった。この柔軟性とバランス感覚は、世界に日本をアピールする上で大きな武器になる。

企画委員 産経新聞社編集局ウェブ編集長兼副編集長 小川 記代子

「次の10年 若手政治家に問う」①

蘭浦 健太郎 衆議院議員 自由民主党

1月9日

「現状維持策で現状維持困難」 内政面での構造改革訴える

現在、自民党の総裁外交特別補佐を務める蘭浦氏だが、むしろ内政面での構造改革の必要性を説いた発言が出色だった。

2020年代について、「この政権が築き上げた体力が残っているうちに、今までと違ったアプローチを進めないとしんどくなる」と指摘した上で、「現状維持の政策では、この国は現状維持することは難しい」「日本の地位低下を招きかねない10年」と厳しい認識を示した。

そして、手を付けるべき政策として、「子育て家庭へのインセンティブ、例えば所得税の優遇を検討すべきだ」と主張し、高齢者に関して、「一定層が働き続けるための様々な制度を考えないといけない」と訴えた。さらに、「役所のスリ



ム化を図ることで、人を産業に振り分けることや、「国が市場開拓をし、中小企業などの市場を維持する」「科学技術を産業に結び付ける。目利きの人を育てる」などのアイデアを紹介した。

もちろん、専門の外交分野の発言も光った。中国の台頭、サイバー、5Gの発達などを受けた「経済安全保障」の必要性だ。政治が主導して、各役所を使って動かしていくのが政治の責任だと訴えた。国際秩序の中で、既存のルールを守っていく必要性も説いた。

緊張感の高まるイラン情勢については、「アメリカとイランが直接対話のチャンネルがない中で、トランプ大統領とハメネイ師と直接会って話せるのは、世界を見渡しても安倍総理しかない。我々が果たすべき役割は当然ある」と語った。

今春に予定されている中国の習近平国家主席の訪日に関しては、香港や南シナ海、尖閣などを例に挙げながら、「双方の国民から歓迎される環境をつくるべきだ」と主張した。

新企画の初回ゲストとして招かれた蘭浦氏だが、司会で読売新聞の先輩でもある橋本五郎氏は「第1回にふさわしい内容だった」と評した。

熊野 英生

第一生命経済研究所経済調査部首席エコノミスト

1月15日

「五輪後の経済、リスクも」



「消費増税後の消費はどうなるのか」「五輪後、反動はあるのか」「2030年までに何がテーマになるのか」。東京五輪・パラリンピックが開かれる今年、経済の関心事は3点に集約できると熊野氏は指摘した。東京五輪の経済効果は2兆円に達する。家電販売に期待が持て、外国人客

の増加も見込める。エコノミストの多くは、今夏まで経済成長に相当プラスに寄与するとみる。熊野氏も「五輪効果で増税による痛みはいったん消える」との立場だ。しかし、「世の中は五輪後の反動減をリスクとして見込んでいない」。楽観論を戒めた。

中長期の経済に目を転じると、テクノロジーを巡る米中の覇権争いが本格化。国内では社会保障や人口減が課題になるといふ。働き手が減り続ける中で、生産性をどう高めるのか。この難題に日本は10年後、答えを出すことができるのだろうか。

朝日新聞社経済部 橋田 正城

2020年経済見通し

中空 麻奈

BNPパリバ証券市場調査本部長

1月20日

拡張財政がバブル崩壊防ぐ



「世界の金融市場はコップに水がいっぱいの状態。一滴でも入ればこぼれてしまう」——中空氏は現在の金融・債券市場をこう表現した。それはまさにバブル崩壊前夜ではないのか。ところが「崩壊は当分起こりそうにない」といふ。日米欧が金融緩和と拡張財政政策を続け、表面張力のバリアを張り続けているからだ。ひとた

び緊縮財政をとれば株・債券市場は大暴落となる可能性があるだけに、拡張財政をやめられないというのが正しいかもしれない。

中空氏は「当面は低金利が続く。日本の企業は競争力を持つためにも少しは借金をして設備投資に回すべき」と提案する。政府には「予算を効果のあるところに使うワイズスペンディング」を求めた。バブル崩壊のきっかけは米中間題、新興国債務などあらゆるところにある。果たして日本は耐えられるのか。正月気分も吹き飛ばす警告だった。

日刊工業新聞社論説副委員長 赤穂 啓子

森 健

野村総合研究所上級研究員

1月22日

「新たな経済指標が必要だ」



経済指標で見ると、近年の日本の経済成長率は1%程度ではほぼ横ばい、雇業者所得も横ばいだ。一方、森氏らの「生活者1万人アンケート調査」では、自分の生活レベルを「上/中の上」と見る人の割合が2009年から増え続けており、経済指標とギャップがあるという。生活の満足度を支えているのは「消

費者余剰」だ。これは、モノやサービスの「実際価格」と「消費者が支払ってよいと考える価格」の差で、いわばお得感だ。GDPには反映されない。森氏は、無料のデジタルサービスの普及が「消費者余剰を大きく拡大した」と話す。森氏らの推計では、音楽配信のスポティファイは19年に世界で3・3兆円の消費者余剰を生み出した。また、日本ではデジタルが生み出す消費者余剰はGDPの3割に達するという。

森氏は「GDPでは生活満足度は測れない。消費者余剰などを加味した、新たな経済指標が必要だ」と述べた。読売新聞社編集委員 東 一真

李 雪連

丸紅経済研究所シニアアナリスト

1月29日

中国経済5・8%成長は可能



李雪連氏の記者会見は、今年の中国経済を体系的に分析、よく整理されている。近年の中国経済は「成長鈍化のイメージ」が否めない。だが、実質GDP、李克強指数、主要産業・地域の動向を見れば「景気減速は一服」、今年の経済成長目標5・8%は達成可能との認識を示した。下振れ要因として急浮上

した新型コロナウイルス肺炎の影響を織り込んで「5・8%を大きく割り込むようなハードランディングは起こらない」と断言したが、根拠は何か。最大の懸念・米中摩擦が「一時休戦」。そして、景気対策「最後の砦」不動産の販売規制解除が温存され、加えて大規模な財政出動、政策金利引き下げという計3枚のカードがある——と。

新型肺炎の世界経済リスクと中国経済の強さを切り分け、最後に揮毫「天道酬勤(お天道様は勤勉な人に報いる)」を披露したが、コロナウイルス・リスクを巡る認識差は残った。

専門誌「外交」前編集長 鈴木 美勝



小林 亨
東京2020組織委員会
国際局NOC/
NPC部部长
⑤ 1月16日

「パイプ役を通じ、選手を支える」

東京五輪・パラリンピックには各国のオリンピック委員会(NOC)とパラリンピック委員会(NPC)からアスリートが参加する。小林部長は選手らのエントリーや暑さ対策の情報発信など、計約400に上る各委員会との窓口役を担う部署を統括する。連絡がつかなかったり、質問の回答期限を守らなかったりと苦労も多いが、文化や風習の違いに配慮しながら外国人を含めた50人の職員で業務に当たる。

故郷で開催された長野五輪に関わりたくて長野市役所に就職。五輪後は職員を辞め、トリノやバンクーバー、平昌など冬季大会を中心に五輪の組織委員会を渡り歩いてきた。「私のような人のレガシーを広めていくのも五輪の発展に向けて大切なこと」と強調する。

ドーピングを巡るロシアへの対応など流動的な要素も多いが、「自己ベストを目指す選手が活動しやすい環境を作る」との信念は変わらない。

オリンピック・パラリンピックと社会



西村 亮
東京2020組織委員会
広報局プレスオペレーション部部长
⑥ 1月30日

読者、視聴者が最終着地点

「プレスオペレーションの最終着地点は、報道の受け手へいかに良い情報を届けるか」。西村部長はPR会社に入社以降、2002年サッカーワールドカップ組織委員会やプロ野球・楽天など様々な立場で広報業務を担ってきたが、信条は不変。取材者の向こう側にいる読者や視聴者の評価を常に意識するからこそ、伝え手であるプレスに対するきめ細かい対応を心掛けてきた。

東京五輪に約6000人、パラリンピックにも約2000人の取材者が訪れる。プールの水中カメラやセーリングの報道船も用意して良い写真や映像を撮れるよう配慮しており、「ここに取材エリアがあると困る」という競技側とのせめぎ合いが起ころ」と苦笑する。

20年大会ではボランティアも含めて約2500人が報道対応にあたるという、「プレスオペレーションがレガシーになってほしい」と願う。

読売新聞社運動部 下山 博之



「米・イラン軍事的緊張の行方」
田中 浩一郎
慶應義塾大学
教授

すれ違う歴史観、行動原理

1月17日

米国によるイラン革命防衛隊の精鋭「コッズ部隊」のソレイマニ司令官の暗殺、イランによるイラクの駐留米軍攻撃やウクライナ航空機撃墜と、2020年は米イランの本格的な戦争の瀬戸際という緊張状態で幕を開けた。情勢はやや沈静化したように見えるが、現代イラン研究の第一人者である田中浩一郎氏は「エスカレーションを生む土壤は残っている。まだまだ危うい」と警鐘を鳴らす。

米国とイランを巡る危機について、田中氏が指摘するのは常態的対立構造だ。米国の「嫌イラン感情」の起点が1979年のイランでの米大使館人質事件だとするならば、イランにとっては1953年にCIAなどが画策し親米のシャヤを復権させたクーデターにさかのぼる。

「最初に誰が何をしたのか」という点では双方の歴史観に約四半世紀のズレがあるというわけだ。

トランプ政権の登場以降、米イランのすれ違いは米国のイラン核合意からの離脱、制裁強化に至り、危険なレベルに達している。「イランの行動原理」は国際法にのっとった行動をしていると公には表明しつつ、裏で行動する場合は決定的な証拠を残さず「否定の余地」を残すというやり方だった。「ソレイマニは悪いやつ」だから排除するというトランプ政権の登場で、イランのこうした「戦略的あいまい性」が機能しなくなっていると、田中氏は分析する。

英独仏3カ国が国連安保理制裁の復活に道を開く「紛争解決手続き」を發動し、核合意は風前のともしびの状態にある。米大統領選が本格化するにつれ、自己顕示欲の強いトランプ氏は対イラン強硬姿勢をキャンペーンに利用するだろう。「イスラム国」指導者バグダディ殺害から3カ月足らずで新たな事件が起きた。「4月ごろになってソレイマニ殺害という『おもちゃ』が使えなくなると、また何か狙うのでは」。その言葉が現実にならないことを祈るばかりだ。

共同通信社外信部担当部長 島崎 淳

「スウェーデンの性交同意法 強制性交とは何か」

1月21日

「同意なしはレイプ」と法改正

スウェーデンでは2018年7月に刑法が改正され、同意のない性行為を罪に問える性犯罪規定が新設された。「イエス」という積極的な同意が示されなければ「ノー」と解釈される今回の法改正の背景について、改正に関わったスウェーデン司法省上級顧問のヴィヴェカ・ロング氏と検察庁上級法務担当のヘドヴィク・トロスト氏が語った。



トロスト氏は「ベースとなつているのは自発的な参加だ」と強調。「構成要件として暴行や脅迫の有無や、それが加害者によって行わ

れたこと、被害者の脆弱な状況に乗じて行われたかどうか証明しなくてもよくなった。相手が自発的に参加していなかった、というだけで有罪にすることが可能になった」と語った。

改正を後押ししたのは市民感情だ。スウェーデンは2005年、13年に刑法を改正し、レイプ罪の対象を拡大した。性的行為には同意を必要とするという規定は、被害者の負担が増すなどの懸念から見送られていたが「2回の改正後も国民は満足せず議論が続き、政府の委員会の任命につながった」とロング氏。最終的には全政党が改正を支持したという。

昨年7月には最高裁の判例も示された。同じベッドで横になることに同意し、下着しか着用していなかった女性との性行為について、最高裁は自発的参加の証明にはならないと判断し、過失レイプ罪に当たるとした。トロスト氏は「施行からまだ1年半のため効果を述べるには早いが、長期的な目標は規範や価値観を変えていくことにあり、レイプ犯罪を扱う上で指標となる判決が進むことを期待している」と話した。

毎日新聞社くらし医療部 椋田 佳代

「安保改定60年 その功罪と今後」②

河野 克俊 前統合幕僚長

1月24日

双務性アピールし同盟強化を



日米安保条約を評価しつつ「何かあれば米側から不公平感が示されるのが最大の弱点」と切り出した。

安保条約は5条で日本有事に米国も共同対処するとした一方で、6条は米軍への基地提供を義務付けた。「日本が5条と6条でバランスをとっていると強調するのは危険。米国は命を懸けているから、日本に対し米軍駐留経費を10倍払えとなりかねない」と警鐘を鳴らした。

米国の変化も読み解いた。米国の世論はそもそも他国への介入を嫌う流れがあったとし、冷戦後には好むと好まざるとに関わらず対ソ連の構図で西側のリーダーになったと位置付ける。だから米トランプ大統領の自国第一主義は特異ではなく「本来

の米国に戻りつつある」と分析する。そんな米国を日本に引き留めておくためにも「日米安保の形を変えていく方向にすべき」と訴えた。

米軍の不満を減らす方法の一つに米軍と自衛隊の「矛と盾」の関係の見直しがあると考えている。専守防衛の国是の下では、主に攻撃は米軍が担い、日本は守りに回る。だが「生命財産を守るときには日本が攻勢に出ることがある」とし、攻撃能力を持つことが「双務性に近づいたアピールになる」と強調した。

他方で日本の自主防衛路線や核保有に関しては「現実的ではなく、持つべきでもない」との立場。また、多国間同盟は信頼性が低く、二国間同盟が重要だとして「日米同盟の一層の強化が不可欠」と説いた。

会場から質問を受ける形で、憲法と自衛隊の関係性にも話が及んだ。自衛隊は成り立ちが警察的な組織で、他国軍と行動規定が異なり「いろいろな問題がある」と説明。安倍晋三首相が提起する憲法への自衛隊明記では「違憲論の終止符にはなるが、警察の延長線上の矛盾は解消されない」と語った。解決するとして「憲法を変えて国防軍法をつくるしかないのでは」との見方を示した。

毎日新聞社社会部 町田 徳丈

達増 拓也

岩手県知事

順調な復興の先に課題も

1月31日



東日本大震災から間もなく9年。災害担当だった私を含め、多くの取材陣が駆け回った被災地は変わりつつある。大津波で壊滅した

沿岸地域はハード面では、復興し、数字上でも順調に成長している。達増知事が会見で示したデータはそのことを裏付けていた。

復興住宅は99%が完成し、仮設住宅の被災者は大幅に減少。岩手県内を縦横に伸びる交通ネットワークが構築され、三陸沿岸道路の完成後は仙台市から八戸市まで約3時間10分もの短縮になるという。建設需要で沿岸地域の総生産は50%以上の増加、県内の就職者は10%以上も増えたという。

また、陸前高田市の津波伝承館はオープンから4カ月で約10万人が訪れ、昨年のラグビーW杯で会場となった釜石市の復興状況は世界に発信

された。災害と復興と繰り返す日本。達増知事は効果と進展を含めた「より良い復興」を実現したいと語るが、巨額の復興予算が今後減少する中、果たして成長は維持できるのだろうか。折しも残念なニュースが前日に流れた。宇宙誕生の謎を解明する最先端の研究施設「国際リニアコライダー」の建設計画（北上山地が建設候補地）が、国の重点大型研究計画に選ばれず、早期の実現は難しくなった。

達増知事は、あるべき自治の姿を「安全を確保し幸福を追求できること」として、地方がその担い手であると主張した。首都直下地震が迫る東京への一極集中の是正が必要という指摘には誰もが賛同するだろう。しかし、その具体策はあるのか。達増知事は、地方志向が高まっていて「望ましいのは自主的な移転」とするが、理想論にも聞こえた。

中央官庁と国会議員の両方を経験した達増知事。被災県のリーダーとして、霞が関の役人気質、永田町のリアルを熟知しているのは心強い。この経験を復興後の諸課題にどう生かしていくのか。「防災と幸福の自治」を実現する斬新なビジョンに期待したい。

テレビ朝日報道資料部長 久慈 省平

「東日本大震災を風化させまい」との願いは、どれほど語られてきたことか。映画「風の電話」も、その思いでつくられた。

電話は、岩手県大槌町のガーデンデザイナー佐々木格氏がつくった。美しく手入れされた庭に白い小さな電話ボックス。電話線は繋がっていない。亡き従兄弟をしのび設置した。「風の電話」と呼ばれ、いつしか

風の電話

試写室 (1.15)



心の声をどこに繋ぐのか

発作業員、入国管理センターに収容されているクルドの難民家族など、現代日本の断面を学びつつ旅した。ハルが辿りついた我が家は、土台のコンクリートと泥水だまりだけ。打ちひしがれるハル。なんとか立ち上がる。行くあてもないまま、教えられて「風の電話」へ、と。泣く、叫ぶ、聴く、また泣き叫ぶ。この場面の演技は彼女の意のままに、と諏訪監督は語っているそうだが、注目された女優・モトローラ世理奈は期待に応えたといっている。そして、彼女の道行を支えた助演陣が、西島秀俊、西田敏行、三浦友和らであり、それぞれ持ち前の味で流れを深めたと見たい。

「風の電話」は新聞、テレビで紹介され、電話をモチーフにした絵本や文庫本も出た。この映画で、なお多くの関心を集めよう。

だが、東日本大震災は驚くほど多くの課題を抱えたままだ。この電話は、どこにも繋がっていない。ハルの心の底からの声をどこに繋ぐのか。この映画、もちろん新聞、テレビも被災者の涙と叫びとを受け止め、国に、しかと繋いでほしい。

朝日新聞出身 川島 正英
(NPOスローライフ・ジャパン)

全国公開中 配給プロトメディア・スタジオ
©2020映画「風の電話」製作委員会

「あなたの取材を最初に受ける」 逃亡前、日本で記者に語る

ゴーン被告 会見取材記 阿部 欣司(テレビ東京「WBS」ディレクター)

地中海に面したレバノンの首都ベイルートは、1月でも日差しがあれば上着がいらぬほど温暖で、海風が心地よく頬を抜ける。しかしその日は朝から冷たい雨が降り続け、コートを着ていても寒さで身震いした。

1月8日正午(日本時間午後7時)、私はカルロス・ゴーン被告の会見場となる建物の前にいた。現場には数百人のメディア関係者が集まり、狭い敷地内で互いに肩をぶつけ合っていた。

日本のテレビで唯一参加

午後1時、会見スタッフの女性が参加できる記者の名前を読み上げ始めた。その声を聞き逃すまいと記者やカメラマンが一齐にゲート前に押しかけ、騒然とした。その中にいた私も体が一気に火照り、寒さを感じなくなっていた。

そして、私の名前が呼ばれた。テレビ東京の他に呼ばれたのは朝日新聞と小学館だった。

きっかけは、去年11月にさかのぼ



会見場でレポートする筆者(1月8日/レバノン・ベイルート/テレビ東京提供)

る。私はゴーン被告とある場所まで接会していた。およそ2時間半、ゴーン被告は日本では裁判が始まるまで自由に発言できないなどと強い不満を述べていた。身振り手振りで語る姿には保釈中の身である自らの現実を打ち消したい気負いを感じさせた。しかし、家族と会えないことについて話を向けると、途端に寂しげな表情を見せたのが印象的だった。

ゴーン被告はテレビ東京が手がけた一連の番組(「ガイアの夜明け」「WBS」)を見ていた。フェアに物事を見ていると私に感想を述べた

後、別れ際にこう告げた。

「いつかカメラの前で話せるときが来たら、あなたの取材を最初に受ける」

私は社交辞令だと思ひ、謝意だけ伝えた。

大みそかの朝、珍しく早起きした私にゴーン被告の国外逃亡の知らせが飛び込んできた。

現地へ向かう機中で11月のゴーン被告との会話を思い起こしながら、兆しはあったと思いをめぐらしていた。

私は嚴重なセキュリティチェックを通過し、案内されるまま2階へあがった。会見場は、大学の小さな教室を思わせるような白壁の部屋で、決して広くはなかった。そこに世界各国のメディア関係者100人以上が入場した。私の同僚のカメラマンと助手は、東京との生中継に向けて回線チェックを始めていた。その脇で私もひっきりなしにくる電話やメールの対応に追われた。番組の進行、コメントの内容、準備するVTRのチェック…。私は体で実務をこなしながら、どこか上の空だった。

ゴーン被告は本当にこの場にやってくるのだろうか? こんなことが現実に起きていいのだろうか…。

現地時間の午後3時。私の目の前にゴーン被告が立っていた。

「違法行為どう考えるか」と質問

一齐にたかれたカメラのフラッシュの先には、むかしと変わらぬ雰囲気漂わせた。カリスマ経営者がいた。あるいはそう思わせたい姿があったのかもしれない。ゴーン被告は妻・キャロル氏を伴い、自由の身であることをアピールしていた気がする。私はマイクを持ちリポートし、この人物がゴーン被告であることを確認し、再び身震いした。

「あなたは日本で尊敬される経営者だった。しかし、あなたは日本の法を破ってここにいる。それについてあなたはどうか考えているのか?」

日本のメディアとして、聞かなければいけないことだった。

ゴーン被告は、法を破ったことは問題だとしながらも検察の方が問題ではないのか、と持論を述べた。

会見翌日、ゴーン被告は私の単独取材に応じた。

別れ際、「あなたの取材にはいつでも応じる」と再び約束した。次の機会があるならば、何を聞くべきか。そんなことを自問自答しながら、取材を続けている。

あべ・きんじ▼2008年入社 警視庁
担当記者「ガイアの夜明け」ディレクターなどを経て 19年7月から現職

津久井やまゆり園事件 神戸 金史（RKB毎日放送東京報道制作部長）

「不寛容の時代」を象徴 記者として、障害児の親として

「ブサイクは、イケメンになる努力をしなければいけないんです」

最初に会ったとき、障害者施設・

津久井やまゆり園（神奈川県相模原市）で45人を殺傷した植松聖被告は、

「自分はブサイクだが、整形を重ねて、ここまで見られるようになったんです」と言った。TBSの西村匡

史記者が面会したときに同席の画家が描いたイラストには強い不満を表した。彼は、より格好よく見られた

いという強い欲求を持っている。

1月に横浜地裁で始まった初公判で、彼は口に指を突っ込んでかみ切ろうとした。「心神耗弱を装ったのでは」という見方が報じられていた

が、私が知る植松被告は格好つけど、私はその場にはいなかったが、そんなみっともない行動をわざわざ取る

とは思えなかった。

おそらく、この法廷で間もなく下されるだろう刑におびえて、取り乱した。その後彼は取り繕っているが、

私はそう思っている。

実際に会って見た印象は、ごく普通の、どこにでもいる平凡な青年だ。そこに、この事件の恐ろしさがある。

「いつまで生かしておくのか」

私は、福岡の民放・RKB毎日放送

の記者で、事件（2016年7月26日）の数カ月前にたまたま東京に

着任した。福岡で暮らす長男（21）

は、先天性の脳の機能障害「自閉症」と知的障害を持って生まれた。だから、彼が事件を起こした後に発した

「心失者（意思疎通の取れない障害者）は生きていく価値がない」とい

う供述に、心刺される思いだった。

面会を求めるまでに、一年以上を要した。彼からの返信の一節だ。

重い障害を持っている子の親

に、こんな話は誰もしたくありません。もちろん自分の子供が

可愛いのは当然かもしれないんですけど、逆にお尋ねしますと、いつまで生かしておくつもりなのでしょう

か。

普通の青年が、どうしてここまで



接見室で筆者（右）と話す植松被告の様子を描いたイラスト（2018年7月/東京都立川市 立川拘置所/RKB毎日放送提供）

残酷になれるのか。それを、考え続けてきた。

多くの記者が、植松被告と面会を重ねている。しかし私は、面会後しばらくは心のどこかが削られて、自分の心の体力が再び整ってからしか、会うことができない。

「少しは役に立つようになった」

彼の立場になって動機を考えたときが、最も苦しかった。

「もしかすると、あなたは障害児のお母さんを救いたいと思ったのでは？」と聞くと、我が意を得たりとうなずいた。

役に立たない人間と自覚していた

と言う彼に、「事件を起こして、役に立つ側になったと思っ

ているので

はないですか」と聞いてみた。

植松被告はうれしそうに「少しは役に立つようになった、と思っ

ます」と笑った。

生活保護の受給者やLGBT、ホ

ームレス……。 「生産性がない」と

見なされた者に対するバッシング

は、後を絶たない。一緒に面会して

もらった奥田知志牧師は「彼も、私

も、同じ時代の子だ」と言った。

誰の中にも、差別の心は潜んでい

る。それを安易に表に出せば、憎悪

の刃となって次々に人の心を刺して

いく。ヘイトスピーチや沖縄差別が

よい例だ。相手との間に勝手に線を

引き、「向こう側の人々の尊厳や存

在を否定する行為」という点で、植

松被告と共通している。この事件は、

私たちが生きていく時代を象徴して

いる。

事件をテーマにRKBで今月放送

したテレビドキュメンタリーの題名

は、「イントレランス（不寛容）の時

代」とした。この事件を、特殊な男

が起こした特殊な事件と捉えてはな

らない。

かんべ・かねがみ▼2005年に毎日新

聞から転職。16年4月から現職。事件

を1人称で描いたラジオドキュメンタリ

「SCRATCH 差別と平和」で第

45回の放送文化基金賞の最優秀賞。著

書に『障害を持つ息子へ』など

新・列島報告④ 静岡県
リニア・トンネル工事

地元メディアが「最後の砦」 JR東海の説明に住民不信感

大橋 弘典
(静岡新聞社政治部)



2027年の東京・品川〜名古屋間の開業を目指しているリニア中央新幹線。JR東海が沿線で建設工事を本格化する中、静岡県最北端の南アルプスを貫くトンネルの工事に着手できている。南アルプスは静岡県中西部に住む約60万人の生活や産業を支える大井川の水源で、川の水が減少する恐れがあり、河川法の許可権限を持つ河川管理者の静岡県が反対しているためだ。

長さ25キロで3千級級の山々を貫く南アルプストンネルは前例のない難工事で、大規模な河川の水源の下を横切る特殊なトンネル。また、南ア

ルプスは大昔に海底にあった地層が毎年数センチずつ隆起してできていて、地層が垂直になり、水が浸透しやすいう構成になっている。

大井川は慢性的に水不足

そのトンネル工事を巡って現在、最大の懸案になっているのはトンネル掘削で湧き出る水が工事中の一定期間、静岡県内から山梨、長野両県に流出する問題。山梨県の富士川水系や長野県の天竜川水系に流れ出ると、その水は大井川水系に戻すことはできない。大井川は頻繁に取水制限が行われ、慢性的な水不足に苦しんできた歴史がある。トンネル湧水が大井川水系から流出する期間はトンネルを掘ってみないと分からず、量も不明。少量の水でも失えば中下



南アルプスのリニア建設予定地を視察する静岡県の川勝平太知事(手前右から2人目) 2019年6月13日/静岡市/静岡新聞社提供

流域に影響が出かねず、流域住民が不安に駆られている。そんな中、JR東海の宇野護副社長は、科学的根拠を示さずに「中下流域に工事の影響は出ない」と断言し、住民の反感を招いた。

ただ、問題の経緯を書いた全国紙の記事は静岡県内版への掲載が多く、インターネットに配信される雑誌などの記事はJR東海寄りの論調が目立った。その結果、「変わり者」の川勝平太知事が静岡空港の直下に東海道新幹線の新駅を設置させるためにごねているだけだという話が流布され、静岡県の水に対する危機感はいまだに全国で共有されていない。

私も昨年春まで東京に駐在し、リニア問題の取材に直接関わらない立場だったので「静岡県がごねているだけ」という印象を持っていた。ところが、異動で静岡に戻り、担当記者として静岡県が工法を技術的に検証する有識者会議を取材してみると、静岡県側の質問にまともに答えず、論点をずらしたり、曖昧にしたりするJR東海の姿勢に驚かされた。地元との合意形成がないまま着工しようとして、矛盾する説明も平気です。

トンネル湧水が静岡県外に流出しても大井川の水は減らないとも主

張。その理由を問われたJR東海の幹部は「水は広く見たら循環する。地下水も河川水も海に流れ、水蒸気になって雨が降る」と意味不明な水循環論を持ち出した。本当に工事をお願いする立場なのか、と首をかしげてしまう対応と説明だ。当然、地元住民は不信感を募らせている。

利水者視点で報道

JR東海からはリニアがなぜ必要なのか、国益に資するのか散々説明を受けた。ただ、静岡県にとっては地域経済を支える大井川の水の方がよほど重要だ。そうした視点で報道できるのは地元の記者しかない。今回の問題も当初、JR東海の対応を批判的に伝えたのは弊紙や一部の地元メディアだけだった。国策として着工の圧力がかかる中、「最後の砦」として機能したとも言える。

国土交通省が調整役となって動き出したが、JR東海の姿勢に改善は見られない。大井川の水を利用する流域住民から届くのは「今まで通り水を使えばいい」という切実な声。そんな声を原点到、地元メディアの役割を果たしていきたい。

おおはし・ひろのり▼2002年入社
浜松総局 東京支社などを経て 19年
3月から本社政治部



最前線¹³

台風19号 長野県

呼び起こされた「記者の原点」 緩みが生んだひと言への抗議

向井 紀文 (信濃毎日新聞社報道部長)

文字通り寝食を忘れて仲間たちと紙面作りに没入した。本支社局からの応援も含む総掛かりの緊張感。ある種の興奮状態にあったのだと思うが、それだけではなかった。

販売店の皆さんが毎日、避難所に届ける新聞を、被災者の方々は隅から隅まで、食い入るように読んでいた。同じ境遇の人々に思いを重ね、あるいは幾たびも水害を乗り越えてきた先人に思いをはせる紙面に、涙を流す人もいた。さらに「自分たちの地区にもこんな被害が出ている」「早く取材に来てほしい」といった連絡が次々に届いた。

些末なことに気を取られていたことが恥ずかしい。新聞を待っていてくれる人たちがまだ、こんなにいるじゃないか。何のために新聞記者をやっているのか、原点を呼び起こされた気がした。

■「信毎さんを信頼してきたんです」

そんなある朝、本社にかかってくる電話を受けた。「信毎さん」がこんな報道でいいんですか。避難所に身を寄せている人からだった。長引く避難生活の大変さを伝える記事中、運営スタッフらのおかげで「快適」だと語るある男性(実名)を紹介したくだけり。避難所では1日3回、



避難所で号外を読む女性。「情報が一番不安」と語った(2019年10月13日/長野市/信濃毎日新聞社提供)

弁当が無料提供されていた。取材のやりとりで食事にも触れていたことから、それも「快適」の具体例と考え、「3食無料の弁当は出るし(中略)文句は言えない」と補足を交え、男性の言葉として書いたことへの、強い抗議だった。

「隣で取材の様子を見ていたが、彼はそんな言い方はしていない」「これじゃ被災者が当たり前のよう支援を受けている印象。彼が傷ついていないか心配だ」。電話を置いて、すぐ避難所を訪ねた。当の男性は「被災したことよりつらい」と震える声で語った。そして電話をくれた人と同じように、「私たちはずっと「信毎さん」を信頼してきました」と、憤りを抑えて訴えられた。

被災者と共に。そう念じていたつもりが、先の見えない不安、支援される立場になってしまった心苦しみの張り付いた「快適」という言葉の真意一つ、十分に受け止められていなかった。忙しさを言い訳に、どこかに緩みが生まれていた。

■社会面に反省込めた記事掲載

「信毎さん」がこれにどう対応するか。この避難所のみならず全ての被災者に、じっと見られていると感じた。率直に反省を込めた記事を出そう。取材記者と話し合い、私たちに「足りなかったもの」の見出しで第2社会面の肩に載せた。

被災地は人口減に拍車が掛かり、個々の生活再建の道のりはなお遠い。災害関連死では周りの目を気にして遺族がそれを言いだせないなど、よく目を凝らさなければ見えない形で苦悩が潜行している。一方で災害からまだ3カ月余というのに、日常にかまけがちな自分がいる。読者、県民と共に築かれてきた「信毎さん」への信頼と期待という原点は忘れまいと、肝に銘じている。

むかい・のりふみ▼1994年入社
本本社報道部 飯田支社 東京支社報道部 大町支局長などを経て 2017年4月から現職

社会部記者の醍醐味



野嶋 剛
ジャーナリスト
第9回/1月20日
出席：10人

「香港のデモは収束しないだろう」

香港には国共内戦や文化大革命などから逃げてきた人たちがその子孫が多くいる。そのため、中国政府に批判的な活動家らが本土に引き渡される可能性がある「逃亡犯条例改正案」は人々のDNAを刺激するものだった。条例改正案の撤回は、デモ参加者らが掲げる「五大要求」の一つであり、昨年10月に正式に撤回された要求は達成された。では残りの要求も受け入れられればデモは収束するのかというと、そうはいかないだろうというのが野嶋氏の見立てだ。一連の抗議活動では、数千人が逮捕され、勾留中に拷問や性的な暴行を受けた例も報道される。仮に要求が達成されても、彼らの中国政府への憤りや不信感にはや収まることはない指摘する。

「一国二制度」の期限である二〇四七年をどう迎えるのか。日本を含む外国メディアが、香港の人々の足跡を記録していかなければならないと思う。

テレビ朝日外報部 橋本 将

土曜記者ゼミ

1編⑤ 1月11日/出席…31人

今回は、現場報告、探す、見分ける、実践の豪華4本立てで行われた。一部では去年11月に韓国で開催されたデータジャーナリズム会議に出席したNHKの山本智・ワールドニユース部副部長と金相佑・同ディレクターが賞を受賞した記事を紹介したほか、電子化が進む韓国のメディア事情についても報告した。

2部では報知新聞の田中孝憲記者から「桜を見る会」をテーマに学んだ。また、今は見ることができない過去のウェブページを閲覧できるサービスWayback Machineも体験した。さらにツイッターの情報を取材に使う際の心得や、ツイートに添付された画像の真贋の見分け方なども学んだ。最後に時事通信の川上貴之記者から、プログラム言語Pythonを使って気象庁の地震情報から速報記事を自動的に作るプログラムの使い方を学んだ。(事務局)

調査報道編⑦ 1月18日/出席…38人
講師 松川 敦志

なぜ地方紙に暴かれたのか
防衛省によるミサイル迎撃システム「イージス・アシヨア」の適地調

査のずさんな調査報告書を暴いた松川氏がマイクを握り、取材の端緒から取材手法までを詳しく説明した。「暇な時間があれば調査報告書を疑いの目で読んでいた。拭えぬ違和感が多くあった」と話した。県知事にも批判的に記事を書いたといい、読者からの反応も良かったと振り返った。近い存在にある読者への責任や地方紙記者としてのプライドを感じさせる講義だった。

講師 阿部 欣司

テレビ東京「WBS」ディレクター

「取材相手に託されるのが大切」

2部では阿部氏が、レバノンに滞在するカルロス・ゴーン被告やレオパレス21による不正建築の取材裏を報告した。取材を成功させるためには、「取材相手に何度も会い、託されるようになることが大切」と述べた。レバノンの取材では、保釈後の各社の報道内容を見て、ゴーン被告から指名があったという。レオパレス21では、テレビ東京のスポンサーであったり、実際に違法建築かどうか確認するため屋根を壊したりして、取材にやりづらさを感じたと話した。厳しい環境の中、ねばり強く取材を続けた姿に学ぶものが多い講義となった。

高知新聞社報道部 乙井 康弘

会議報告

第409回会報委員会

(1・8 小会議室)
2月号の編集について協議した。

出席 乾委員長、塚田、曾我部、桑田、竹内、中村、渡辺、迫田の各委員。

第503回企画委員会

(1・14 会見場)
新委員の齊川誠太郎・北海道新聞社東京編集局長が挨拶した後、今後のゲスト候補について協議した。

出席 西村委員長、坪井、上田、橋本、榊原、小川、森田、杉田、山田、齊川、井上、宮内、伊藤、竹田、出川、川戸、小栗、川村、平井、福田、倉重の各委員。

第509回会員資格委員会

(1・16 小会議室)
2月1日付入退会を審議、理事会に答申した。

出席 田中委員長、山浦、指尾、津川(卓)、狐野、山本、高木の各委員。

第236回施設運営委員会

(1・29 小会議室)
事務局が19年10月から12月までのアラスカ、貸室の利用状況を報告後、会見場、会議室、和食堂の床・クロスなどの張替え工事と喫煙室換気設備増強工事を提案。工事を進めることとで合意した。

出席 上崎委員長、赤羽、平松、袴田、林、有木、長崎の各委員。

2019年(第47回)予想アンケート結果(2019年1月25日締め切り) 応募総数 339) 平均=4.9点

	正解	正解率
①12月31日現在のわが国の首相は誰か	(安倍晋三)	82.6%
②衆参同日選挙が実施	(されない)	59.3%
③新元号に使われると思う漢字を一文字だけ書いてください ※25人が「和」と回答。「令」は0人。	(令または和)	7.4%
④日経平均株価の終値が18,000円を割る日が ※1月14日の19,561.96が最安値	(ない)	34.5%
⑤消費税の引き上げが予定通り10月に	(行われる)	82.6%
⑥日朝首脳会談が開催	(されない)	75.0%
⑦米下院がトランプ大統領の弾劾訴追を	(する)	44.0%
⑧将棋の藤井聡太七段が8大タイトルのいずれかを獲得	(しない)	31.0%
⑨ラグビーワールドカップで、日本代表が決勝トーナメントに進出 ※予選プール1位通過で史上初の決勝トーナメント進出	(する)	33.0%
⑩陸上男子100メートルで日本記録(9秒98)が更新 ※6月7日、サニブラウン・ハキーム選手(フロリダ大学)が9秒97に更新。	(される)	41.0%

最高得点は9点で一人だけ

毎年恒例の新年互礼会員懇親会が1月17日(金)午後6時から、10階ホールで開催され、148人が参加した。原田亮介理事長は冒頭のあいさつで「年末年始にかけてゴーン氏のレバノンへの逃亡劇、米国によるイラン革命防衛隊司令官の殺害事件と大きなニュースがあった。今年は東京五輪・パリンピック、米大統領選がある。安倍首相の自民党総裁任期満了を来年に控え政局の動向も注目される。ニュースの背景が分かるような記者会見を開催し会員の皆さまの期待に応えたい」と述べた。

続いて、「2019年予想アンケート」の表彰が行われた。一番の難問は「新元号の漢字一文字」を当てる問いで、正解率はわずか7.4%。惜しく

もその問いには外れたものの、唯一、9問正解した榛葉英二氏(静岡放送常務取締役営業・事業本部長)が最高得点者となった。当日は、代理で村木信男氏(同東京支社長補佐)が榛葉氏のあいさつ(左に抜粋)を代読し、西村陽一企画委員長から賞状と副賞を受け取った。



左から遠藤俊英金融庁長官、原田亮介理事長、小田尚前理事長

素晴らしいスタートダッシュに



10問中「こうなる」と確信して回答したのは5問だけ。残り9問は「こうなってほしい」という希望に基づいたもので、新元号漢字一文字が外れた9問正解は出来過ぎで驚いています。念ずれば通ずるではないですが、9問目は袋井市で行われた日本対ア

イルランドのチケットを持っていたが故のYES。個人的にはラグビーW杯の興奮と感動を味わえたことが昨年の重大ニュースのトップです。

新年早々、トヨタ自動車が裾野市に未来都市をつくるという朗報が、高校サッカーでは男女の県代表が日本一に。オリンピックキイヤーの静岡、素晴らしいスタートを切る事ができたこと喜んでるところです。

静岡放送常務取締役 榛葉 英二



「野党合流の行方は?」 玉木雄一郎国民民主党代表を囲んで

映画「惑星ソラリス」出演記

タルコフスキー監督との1週間

鈴木 康雄



すずき・やすお
1939年生まれ 東京外国語大
学ロシア科卒 64年読売新聞
社入社 モスクワ バンコク
ワシントンの各特派員 編集
委員などを務め 99年退社
自治医科 富山国際両大学の
教授を務めた 訳書に『赤い
反乱 エリツィンはクーデター
を知っていた』『ゴルバチョフ
回想録』(共訳)など多数

◆モスクワ支局に出演依頼の電話

今から半世紀前の1970年から71年、読売新聞モスクワ支局の電話のベルが鳴った。受話器を取り上げると女性の声がかう話しかけてきた。

「こちらは、映画監督アンドレイ・タルコフスキーの秘書のマーシャです。監督は、ポーランド人のSF作家、スタニスワフ・レムの小説『ソラリス』(邦題『ソラリスの陽のもとに』)をもとに自分で脚本を書き上げ、すでに撮影に入っています。主人公役は、ソ連の有名俳優のドナタス・パニオニスです」

「なるほど、それは興味深いですね。映画が完成したら日本でもきっと大評判になると思いますよ」とこちらもエールを送る。ロシアでは、話はなるべく大きくするのが肝要。こちらの気持ちを少々大げさに伝えるのが礼儀だ。

それにしても世界のタルコフスキ

ーが日本の新聞社に何を頼みたいというのだろうか。

「実は、映画の中で外国人研究者が参加する国際会議の場面が何回か出てくるので、日本人を含め、数人の外国人俳優が必要になりました。でもモスクワには欧米、日本など西側の俳優を回してくれるエージェントがありません。そこでモスクワ駐在の外国特派員に声をかけてはどうかとなり、手始めにヨミウリに電話してみたのです」

なるほど、筋道は通っている。しかし、西側特派員にとって冷戦真っただ中のモスクワは、注意に注意を重ねても足りない場所だった。業務以外に手を出さないので常識だ。

こんなことがあった。
ドライブ中に当時4歳になる私の息子が「おしっこ」と言い出した。
田舎道沿いの工場らしき建物のそばに停車し、息子はコンクリート壁に向かって用を足した。すると1分

もしないうちにパトカーがサイレンを鳴らしてやってきて、私はスパイ活動現行犯で調べられた。そこは表札のない軍需工場だったのだ。謝罪して勘弁してもらったが、ソ連外務省新聞部やKGBのファイルには、私が息子を使って隠密活動をしていた報告が書き込まれたことだろう。

話はタルコフスキーに戻る。

支局長に話すと、「面白い申し入れじゃないか。どうせ大した仕事ではないだろう。日本のマスコミがタルコフスキーをインタビューしたという話も聞かないので、これはチャンスじゃないかな」ということで、引き受けることになり、支局長が「鈴木君、勉強だと思って君が行ってこいよ」と言ってくれた。

指定された日に、「戦艦ポチョムキン」(エイゼンシュテイン監督「誓いの休暇」(チュフライ監督)などの名作を生んだ国立モスクワ映画撮影所(モスフィルム)に出かけた。服

装は「学者か専門家風でお願いします」と指示されたので、いつもの上下の背広、ワイシャツにエンジのネクタイといういでたちだった。

タルコフスキー監督は1932年4月、ヴォルガ川流域ザブラジエで生まれた。私より7つ年上だが、初めて顔を合わせた時には、私よりも5歳は若いのは、と感じたほど若々しかった。初めてスタジオに入った時、「これがタルコフスキーだ」と思った貫禄のある人物は、ソ連でも有名なユーソフ主任撮影技師だった。

◆ロシア語のセリフを心配

第1日目、午前の撮影が終わった。そこで初めて、監督、スタッフ陣と外国人エキストラたちのお互いの挨拶が行われた。

タルコフスキー監督が「何か質問があれば、遠慮しないで聞いてください」と言う。実は、私には心配事があった。セリフだ。日本語だって



映画「惑星ソラリス」の一場面 中央が筆者

セリフを言わされれば、途中でつまづいてしまうだろう、ましてや、カメラが回っているところでロシア語で質問したり答えたりするとなったら：想像するだけで恐ろしい。私のだどたどしいロシア語を理解してくれた監督は「そんな無理なことは注文しないよ」と私の心配を読み取ってか、笑顔でうなずいた。

外国人エキストラの中で日本人は私1人だった。その他は、モスクワ滞在10年以上になる米国人ジャーナリストと若手のドイツ人新聞記者、それに国名はわからないがアフリカ人の記者が1人いた。日本人や黒人も入れておくのは国際マーケットを考慮してのことなのだろう。

昼食は撮影所内の食堂で取ったが、食事の内容、味もよかったが、皿、

カップも上品で清潔だった。ここなら、喜んで毎日でも食事に訪れたいと思った。

午後の撮影が始まる前に監督から再び「何か質問はありませんか」と声がかかった。私は、セリフの件がまだ心配だったので、「ロシア語でのセリフはないと考えていいのですね」と念押しで質問をすると、監督は吹き出しそうになった。「せっかちだねえ。時々、即興でセリフを注文するからね。その時はよろしく」とみんなを笑わせた。こちらは心配で笑い事ではなかったが。

普通のロシア人からすれば、日本人の顔をした男性や女性がロシア語をしゃべっても驚かないと思う。というのも、顔が日本人によく似たウズベク人、カザフ人が、ロシア人そっくりの発音で見事に発音しているからだ。監督も、外国人に下手なロシア語をしゃべらせてみたいと思う茶目っ気もあるような気がする。

結局、私は「そんなことは果たして可能だろうか」というロシア語のセリフをしゃべることになり、出演時間は1分30秒間だった。ただ残念なことに、カンヌ国際映画祭で審査員特別賞を受賞した国際版(約2時間半)の「惑星ソラリス」では、私の出演はカットされてしまった。ロシア語版は上下4時間で不肖日本人専門家もロシア語をしゃべっている。

ただ、監督本人が撮影現場で私に演技を指導している写真が、『週刊読売』(87年7月26日号)に掲載されたことがある。この写真は手元がないが、私の出演場面を撮影した写真がみつかったのも、このページに掲載した。

セリフのほかに苦労したのが、服装だ。撮影所には5日間通ったが、監督からは、「ネクタイ、ポケットチーフに至るまで、全く同じ服装で来るように」と厳しい指示があった。帰宅後ワイシャツをすぐに洗濯し、暖房機のそばで乾かし、出かける前に妻に点検してもらった。

詳しい数字は忘れたが、1週間のルーブル払いの出演料は円換算でざっと5万円と少なかったように記憶している。私たち特派員俳優の格付けは、「特例として、特別Aのランクということになっているのよ」と監督秘書がウインクしてくれた。

◆単独インタビューに成功

最終日に私は、忙しそうに監督に蛮勇を振るってインタビューを申し入れた。すると、「ああ、もちろんだとも！ ヨミウリの支局でやる。車で撮影所に迎えに来てくれるかな」と快諾してもらった。

会見場所に日本の新聞社の支局を選んだのは好奇心だったと思う。日本人の運転はロシア人とどう違うのか？ 日本人の話し方、笑い方、お

茶の飲み方は？ 監督は、初めて見ることに特別な関心を持っていた。

撮影所から読売支局まで、私が乗っていたワーゲンで20分ぐらい。その間、監督は雑談をしながら私のハインドルさばきをじっと見ていた。

ウクライナ・ホテルの近くの交差点まで来て私が信号待ちで車を止めた時、監督はこう言った。「日本人ってせっかちなだね。私がクラッチを入れ、信号が変わったらすぐにブレーキペダルを放して発進できるようにしているのを見ての感想だった。

支局の応接間で行ったインタビューは1時間以上にもなったが、監督は、日本や日露関係のことは話題にしてもあまり乗ってこなかった。「惑星ソラリス」は地球と他の惑星との交流がテーマ。監督の興味は現実政治よりもずっと大きく、広い宇宙にあった、ということだろう。それでもインタビューは、私にとつて楽しい、貴重な1時間だった。

インタビュー後、私は再び監督をワーゲンの助手席に乗せ、モスクワの中心街にある「ドム・キノ」(映画の家)映画関係者が集う会館まで送り届けた。車から降りると監督は手を一度振って、建物のドアの向こうに消えていった。その場面がまだ記憶に残っている。

タルコフスキーが私の車の助手席に座ってくれた。これが私の勲章だ。

私が会ったあの人

元名護市長・岸本建男さん

リベラルと基地の狭間で苦悩

阿部 岳（沖縄タイムス社）

辺野古新基地建設は、沖縄に息づく無数の人生を翻弄してきた。怒り、嘆き、諦め、それでも前を向く覚悟。人々の思いの曲折に、私は新聞記者として立ち会う機会に恵まれた。

岸本建男さん（1943年〜2006年）の陰影は、中でも濃い。基地受け入れ表明で歴史に名を刻んだ地元名護市の元市長は、元来リベラルな人物だった。

早稲田大学の学生時代に故郷沖縄の本土復帰運動に身を投じ、卒業後は世界を放浪した。ゲバラそっくりにひげを伸ばし、ベレー帽をかぶった写真が残っている。最期の地ポリビアを訪ねた際に撮り、晩年まで大事にしていた。

帰郷して名護市役所に入ると、すぐに頭角を現す。86年に就任した保守の比嘉鉄也市長は岸本さんのリベラルな信条を知りつつ、手腕を買って取り立てた。政府が米

軍普天間飛行場の移設先に名護市辺野古を選び、基地建設の是非を問う市民投票が実施された97年は助役の職にあった。

投票結果は反対多数。しかし、比嘉市長はこれを覆して受け入れを表明し、責任を取って辞任した。混乱の中、岸本さんは後継者として98年2月の市長選に出馬。下馬評を覆して勝利した。

入社2年目の私は選挙直後、名護市にある支社に赴任し、岸本さんを取材するようになった。とは言っても、役所ではなかなか会えない。夜回りにも応じてくれない。翌年にかけて政府から再び基地受け入れ表明の圧力が強まり、ガードは堅くなるばかりだった。

■「私には私の都合がある」

当時、名護市の人口は5万人余り。小さな街のトップに、警護の警察官が常時2人張りつく事態になった。



名護市辺野古への基地受け入れを表明する岸本建男市長（1999年12月/沖縄タイムス社提供）

身辺の安全確保はもちろん、動向を探らせる目的が政府にあった。岸本さんが受け入れるのか拒否するのか、最後まで意向をつかめていなかった。

いよいよ表明が迫ったころ、岸本さんから初めて声がかかった。記者が全国から名護に集まる中、沖縄の地元2紙の2人だけが自宅に呼ばれた。酒を交えた他愛もない話の中、岸本さんがこれだけは伝えたい、という目で言ったこと。「私は国や県のペースにはやられない。私には私の都合がある」

■厳しい条件付きで受け入れ表明

基地建設の経済効果を期待する地元経済界に担がれて市長になった以上、受け入れざるを得ないことは岸本さん自身がよく知っていた。ただ、

「受け入れ方」にこだわった。99年12月の受け入れ表明では基地使用協定の締結、基地使用を15年に限ることなど、7つの条件を付けた。

結果から見ると、条件はあまりにハードルが高かった。米国にのませられなかった政府は05年、より辺野古集落に近い位置に建設する案を持ち出した。岸本さんは反対に転じたが、体はすでに激務でむしばまれ、市長退任を決めざるを得なかった。

わざと難しい条件を付けて基地を阻止する高等戦術だった、とみる人もいる。私はその場その場で精いっぱい抵抗をし、首の皮一枚で反対を貫けたのだと思っている。

後継者を当選させ、06年2月、2期8年を全うして退任した。あいさつでは、「大変激しい8年間だった。このような時代を任せられたことは私の運命だった」と語った。肝細胞がんで亡くなったのはわずか49日後。62歳の若さだった。

（あべ・たかし 編集委員）
次号は松島佳子さん（神奈川新聞社）にバトンが渡ります。

悼 政治記者・宇治敏彦さん 追「この人には敵わない」

この人にはとても敵わないと思われた政治記者が一人だけいる。宇治敏彦さんである。政治家との距離のとり方、原稿を書くまでの推敲の深さ、記事の視点の面白さ。何よりも人間としてとても敵わないと思う。宇治さんは万葉集の歌をテーマに版画を彫る。「棟方志功に褒められたことがあってね」。普段、自慢など絶対しない宇治さんが嬉しそうにそう語ってくれたことがある。私が青森の中学時代、志功の甥と同級生だったこと、志功に版画を教えた平塚運一に可愛がられ、たくさんの版画を見てきたことなど話したときだ。そして版画を一枚いただいた。一流の版画だと私も思う。



「戦後政治70年」をテーマにクラブで会見した宇治敏彦さん(2015年12月1日)

政局の連載記事を書くよう命じられたとき、宇治さんにそのことを話した。宇治さんは紙にさまざまなチャプターを書き、4、5回の連載のテーマを上げてくれた。けれども決して押し付けようとはしない。「僕

ならば」といつも控えめに話す。宇治さんはダンディでいつもきちんとしている。革靴はいつも光っていたし、皺になったワイシャツを見たことがない。「髪はどのぐらいの間隔で洗ってますか」と尋ねたことがある。そのころ長髪だった私は一週間に一度ぐらいだった。「一日おきかな」。私の髪を洗う頻度が増えたことは確かだ。私より7歳年長なのだが、いつも若々しい。この人は

きつと年を取らないのではないかとさえ思っていた。プレスセンターに事務所を持つ宇治さんに少しでも近づきたくて私も事務所を持った。記者クラブの食堂でよくすれ違った。ああ、宇治さん、相変わらず元気だな、若いな、といつも感じていた。朝刊の死亡欄で宇治さんの名前を見たときの胸の鼓動は尋常ではなかった。

（日本経済新聞出身）
田勢 康弘

うじ・としひこ氏(中日新聞社相談役)
東京本社編集局政治部長 経済部長 論説主幹 取締役 専務・東京本社代表・論説担当を務めた後、2007年から相談役、1993年から11年にかけてクラブの企画委員、企画委員長、副理事長を務めた。19年12月11日死去。享年82



新聞社を退職後、出版社の編集部で働き始めて3年余り。伝統を誇り書店売り上げトップを維持する経済誌だが、新聞

同様、部数減が続く中、「デジタルファースト」が昨年6月に打ち出された。

雑誌とオンラインの編集部が統合され、オンラインは課金モデルが導入された。

週のある曜日、フロアのあちこちで担当編集長を中心に取材班ごとに議論の輪ができる。

読者はどういう層を想定するのか、キラーコンテンツは何なのか、それは役に立つ情報なのか。毎号の評価が部数にはつきり出る雑誌の場合、読まれる

記事をとという意識は強いが、オンラインになると、一本一本の記事のPV(ページビュー)が一日の中でも時間ごと、地域ごとに

「結果」として表れる。タイトルにどういいう語句を使うか、どの言葉の前に出すかでも反応は違う。

新聞が伝える第一報だけでない

読まれる記事と大事な記事

く、ネット上ではメディアを介さず誰もが直接、発信する情報がある。その中でお金を払ってでも読んでみようと思わせるような独自の付加価値をどうつけるのか、試行錯誤が続いている。

これまで、自分が重要と考えたことが伝えるべき情報とばかり、供給側の論理での仕事に慣れていた私には新鮮な体験だ。

「読まれる記事」と「大事な記事」。どちらも必要だし、違っている。

「解」は見つかるものだろうか。そんなことを考えていたら、前にいた新聞社でも、長年、当たり前だと考えていた新聞作りの流儀やニュース感覚を、読まれるという観点から見直す、「新聞脳」を溶かす勉強会なるものが始まっていると聞いた。

両立はメディアの永遠の課題なのだろう。デジタルの時代がこの悩みをまた深くする。だが悩みがある課題でもある。

朝日新聞出身 西井 泰之

マイBOOK  マイPR

■『13歳からのジャーナリスト 社会正義を求め 世界を駆ける』 伊藤 千尋 (朝日新聞出身)

内戦、革命、ゲリラ、35年の外国取材

子ども向けの入門書ではありません。ジャーナリスト歴45年の記者が、初めて特派員となってからの35年を綴りました。事実を追ってひたすら現場を目指し内戦の戦場、革命の市街戦、ゲリラ根拠地、9.11テロの当日からオリンピックやハリウッドまで取材する中で考えた「何のために書くのか」。抑圧された人々のために活動する「解放の神学」の神父に共感し、「行動するジャーナリスト」を自認するようになった経緯の記録です。



かもがわ出版 1,760円

■『A New Development Model for Japan Part II :Selected Essays 2009-2019(英文)』

小島 明 (日本経済新聞出身)

停滞日本の実相を総括

2008年に出版した第一部の続編。Japan Journal誌等へ寄せた小論をまとめた。リーマンショックから日銀の非伝統的金融緩和、ゼロ金利、マイナス金利政策まで、日本の政策と経済、社会、政治を点検。政府も日本のソフトパワー戦略を標榜し、対外発信の重要性を強調するが、実体は逆で、むしろ発信力は低下している。あえて個人として対外発信を目指す。



Nikkei Publishing Inc.

■『小泉進次郎と権力』

清水 真人 (日本経済新聞社編集委員)

政治行動10年の「実像」を描く

小泉進次郎環境相は映像とSNSが席卷する時代の政治家だ。どこでもカメラを向けられ、無数の言説や映像が断片として世にあふれる。だが、それらはほとんど文脈を成さない「点」のイメージでしかない。

首相官邸、自民党本部、国会での重要決定はカメラのない密室でなされる。小泉氏はそんな「戦場」で他の議員や官僚らとどう切り結び、どんな政治行動をしてきたのか。議員生活10年を定点観測した筆者なりの「実像」を描いた。



日本経済新聞出版社 1,980円

■『永田町政治の興亡 権力闘争の舞台裏』

星 浩 (TBSテレビ「NEWS23」キャスター)

平成政治の苦い教訓を振り返る

消費税、政治改革、自衛隊派遣……。30年余にわたった平成の政治は波瀾万丈だった。消費税に政治生命をかけた竹下政権は、導入直後に崩壊。小選挙区制導入はすったもんだの末に実現したが、評判は良くない。自衛隊は海外での活動を広げたが、外交の基本姿勢は定まっていない。東西冷戦後に吹き出した難問に直面した政治家たちの苦闘と権力闘争。その姿を政治記者の視線で描いた。令和への苦い教訓はどう生かされるのだろうか。



朝日新聞出版 1,650円

 新しいOB会員

■  渥美 哲



1983年NHK入局。「おはよう日本」編集責任者、解説委員、鹿児島放送局長、首都圏放送センター長などを務め2018年6月退局。現在、NHKエンタープライズ常勤監査役。

解説委員の時などにA会員として会見などに出ていました。様々な知見や生の情報に触れ、親睦を図る場として、また参加したいと思っています。

■  武内 健二



1976年朝日新聞入社。論説委員、名古屋本社経済部長、東京本社編集局長、社長室長など。2009年から九州朝日放送。代表取締役社長、同会長、相談役を務め現在、同社特別顧問。

取材現場を去って25年、編集局を離れて10余年。頭も体もサビつきましたが、「批判精神のかけらは残っているはず」と思い込んでいます。

■  細川 隆三



1991年テレビ朝日入社。政治部では官邸、与党、野党の各クラブのキャップ、統括デスク。「選挙ステーション」プロデューサー、「報道ステーション」政治担当デスクなどを経て2019年3月退社。

去年4月からフリーの政治ジャーナリストとして活動を始めました。先輩方のご指導をいただきながら精いっぱい頑張ろうと思います。

 情報発信

■ 木村一基王位 トークショー

東京新聞主催のフォーラム。将棋の王位戦で昨年、史上最年長の46歳で初タイトルを獲得した木村一基王位の記念トークショーが開かれ、約300人が参加した。(1.11 10階ホール)

■ サステナブルファイナンス大賞受賞式

同賞は、環境金融研究機構(RIEF)が環境問題を金融的手法で解決する「環境金融」の分野で貢献した金融機関や企業を顕彰するために創設した。5回目(2019年)は大賞に城南信用金庫、優秀賞に野村證券らが選ばれた。(1.22 会場)

■ 放送人政治懇話会

テレビ・ラジオ局の現役・OBによる定例の勉強会。1月は森喜朗元総理(1.28)、岸田文雄自民党政調会長(1.29)を招いた。

FPCJが理事長候補を公募

公益財団法人「フォーリン・プレスセンター」(FPCJ)が理事長候補を公募している。応募資格は、メディア関連業務の勤務歴や5年以上の海外勤務経験などがあり、応募締め切り時点(2.28)で67歳以下の方。任期は20年5月末から。問い合わせは、03-3501-3401、saiyo@fpcjpn.or.jpまで。

レストラン *価格は全て税込みです

予約電話 和食 3503-2723 洋食 3503-2766・2731

和食 如月懐石 (2/28まで)

先付：穴子小袖寿司、菜の花サーモン巻きなど
お椀：蛤真丈沢煮仕立てなど 造り：鮪、勘八、鯛 焼物：ぶり柚子味噌焼き 煮物：にしん甘露煮など 揚物：子持ち昆布とたけのこの挟み揚げなど 食事：ざるそば 水菓子：季節の果物 (5,500円) (板長：大井由光)

洋食 季節のおすすめコース (2/29まで)

シーフードサラダ、オイスターチャウダーまたはコンソメスープ、牛フィレ肉のステーキ グレービーソース、ケーキとフルーツの盛り合わせ、パン、コーヒー付き (4,400円)。ランチ、ディナー (土曜日はランチのみ9階レストラン)ともにご利用いただけます。(シェフ：黒須修一)

国産牛ロース肉のすき焼き鍋がおすすめ

毎年好評のすき焼き鍋を今年も2月28日(金)まで提供します。小鉢3品、すき焼き鍋にうどんとデザートのアイスクリューが付いています。お一人3,960円、お二人からお受けします。ご予約を(03-3503-2723)までお願いいたします。

会費の領収書をお送りします

確定申告のために1年分の会費の領収書が必要な方は、経理担当(電話：03-3503-2727)へご連絡ください。

法人会員代表変更

・日本放送協会 前田晃伸 会長(旧上田良一氏)

春の異動 会員登録変更のお届けを

会員の入退会には所定の「変更届」を事務局へお届けください。お問い合わせは事務局の村田(電話：03-3503-2727 メール：murata@jnpc.or.jp)までご連絡ください。役職変更のみの場合もお知らせ願います。

HP更新情報 <https://www.jnpc.or.jp/>

「オリパラ取材体験談」第1号ウェブで掲載

●「1964年東京五輪 閉会式の発案者」

柴田鉄治会員(朝日新聞出身)

柴田さんは1964年の東京五輪当時は入社6年目。各国の選手が入り交った自由な雰囲気の閉会式を発案したのは、朝日新聞社会部の先輩記者だったと明かしています。

皆さまもぜひ、五輪に関連したエッセーをお寄せください。投稿希望の方は杉本まで。(電話：03-3503-2729、メール：sugimoto@jnpc.or.jp)

クラブの電話 ダイヤルイン

- 和食レストラン(9階) ☎3503-2723 ●会員事務 ☎3503-2727
- 洋食レストラン(10階) ☎3503-2766 ●経 理 ☎3503-2728
- 貸室予約、宴会打ち合わせ ☎3503-2724 ●クラブ行事への申し込み ☎3503-2722
- 受 付 ☎3503-2721 ●会見申し込みアドレス kaiken@jnpc.or.jp

会員現況

- 法人会員：132社 ●基本会員：736人 ●個人会員：1,222人
- 法人・個人賛助会員：57社・127人 ●特別賛助会員：105人
- 名誉・功労会員：11人 ●学生会員：90人 計：189社・2,291人

クラブ賞 推薦募集を締め切りました

今年の日本記者クラブ賞と特別賞の候補推薦募集を1月末で締め切りました。

受賞者は推薦委員会、選考委員会を経て、4月22日の理事会で決まります。贈賞式は5月27日、社員総会の日に行います。

閲覧コーナーデスク USBで充電可能に

ラウンジの閲覧コーナーのデスクにはこれまで、コンセントしかありませんでしたが、USBケーブルも使えるようになりました。スマホの充電などにご利用ください。

<訃報>

大藏雄之助会員(TBS出身、88歳)が1月8日に、死去されました。大藏さんには1986年から87年まで理事・総務委員をお務めいただきました。ご冥福をお祈りいたします。

会報は今号で600号に

日本記者クラブ会報は1970年3月1日に第1号が発行され、今号で600号になります。会報は会員にクラブ行事を報告するために発行され、半世紀にわたり会員とクラブをつないできました。

現在、柱となっている連載のうち記者OBによる取材の思い出話「書いた話書かなかった話」とホットなニュースについての一線記者による取材報告「ワーキングプレス」は、80年代初めにスタートし40年近く続いています。

創立45周年記念事業で創刊号から現在までの全号をウェブサイトに掲載、全て読むことができます。一号一号にその時代の世相が反映され、多彩な会見ゲストの発言記録や取材体験記が詰まっています。

今後の行事予定(2/4現在)

19㊦	15:00~16:30 10階ホール 「プーチンのロシア」① 畔蒜泰助 笹川平和財団シニア・リサーチ・フェロー
21㊦	13:30~14:30 10階ホール 「オリンピック・パラリンピックと社会」⑦ 中南久志 東京2020組織委員会パラリンピック統括室長
25㊦	12:00~13:30 10階ホール ケビン・シュナイダー在日米軍司令官 昼食会
	14:30~15:30 10階ホール 「安保改定60年 その功罪と今後」③ 石破茂 衆議院議員
27㊦	17:30~19:20 10階ホール 試写会「サマショール〜遺言 第六章」
	17:30~19:35 10階ホール 試写会「Fukushima 50 フクシマフィフティ」

会報委員会

委員長=乾 正人
委員=神田 俊英 桑田 広久 迫田 朋子
曾我部 桂 竹内 竜一 塚田 健太
中村 直樹 長竹 孝夫 西井 泰之
渡辺 昌己

(事務局：本庄五月 杉本翔一)

☎03-3503-2754 FAX 03-3503-7271

撮影：諫山 卓弥 (朝日新聞社映像報道部)



「チャーリング」作業で激しく炎を吹き出す洋樽 (2019年11月、宮崎県都農町)

毒と薬は紙一重

「不老不死」の薬を求める努力が、今日の植物学、動物学、医学・薬学、アンチエイジング研究につながったことはよく知られている。中世ヨーロッパでは魔女が山野に自生する「薬草」を調べて全身に塗りたくり、箒に乗って空を飛んだといわれる。魔女の薬草には中枢神経を刺激するチヨウセンアサガオなどが含まれており、現代の規制薬物によるトリップ体験と同様ではないかとの説もある。また狩りの毒矢に使われた猛毒のトリカブトは、鎮痛剤としても処方された。

「毒にも薬にもなる」薬草と酒類の製造販売を一手に握っていたのは教会と修道院である。発泡性のシャンパンを開発した修道僧ドン・ペリニオンは、完成したシャンパンを口に含んだとき、「まるで星の輝きのようにだ」と語ったと伝えられる。今日もブランドにその名を残すドン・ペリニオンは盲目で、一度も星を見たことはなかった。リキュールのベネディクトイン、シャルトリューズ、キュンメル、エギユベル・ビターなど、修道院で薬として作られた酒は多い。使われる薬草は100種以上にも及び、今でもわずか数人しかレシピを知らないリキュールもある。

「百薬の長」といわれる酒造りに欠かせないのが「樽」である。オークやミズナラの木樽から染み出るポリフェノールには薬効成分が含まれるだけでなく、酒に香りを与え、ワイン、ウイスキー、酒、リキュールに香ばしい熟成感を醸し出す。樽の内壁を炎で焦がすチャーリングも温度、処理時間など、秘伝の技術に支えられているという。それにしてもまるで紙面から炎が噴き出すような写真の迫力には、心底圧倒される。

(倉澤 治雄)